

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅱ-1-7 災害に強い県土づくり

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 砂防課長 江角 功 電話番号 0852-22-5205

事務事業の名称	急傾斜地崩壊対策事業	
目的	(1) 対象	急傾斜地崩壊危険箇所に住居する住民並びに住家等
	(2) 意図	がけ崩れ災害に対し、県民が安全に暮らせる環境を整備する
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 急傾斜地崩壊危険箇所のがけ崩れ災害防止のため、交付金事業、県単急傾斜地崩壊対策事業により、擁壁、法枠等の急傾斜地崩壊防止施設の整備を行う。 急傾斜地崩壊防止施設の機能回復及び機能維持を図るため、県単砂防修繕（急傾斜）事業により施設の修繕を行う。 当年度発生のがけ崩れ災害により緊急に対処が必要な箇所の保全のため、災害関連緊急急傾斜地崩壊対策事業、県単急傾斜地崩壊対策事業（現年災）等を実施する。 風水害等により被災した急傾斜地崩壊防止施設を原形に復旧し、機能回復を行うため、補助・県単の公共土木施設災害復旧事業を実施する。 	

2. 成果参考指標

(1) 指標名	急傾斜地崩壊危険箇所に対し、がけ崩れ防止対策を講じた箇所の保全される人口の累計	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
		目標値			34,430	34,590	34,760	34,920
式・定義	前年度までの保全人口数+当該年度概成箇所の保全人口数	実績値	34,260	34,440	34,653	34,773		
		達成率		100.00	100.20	100.10		%
指標名		年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
		目標値		0.00	0.00			
式・定義		実績値	0.00	0.00	0.00			
		達成率		0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	1,602,056	1,868,024
うち一般財源(千円)	57,808	53,524

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

・平成26年度までにかげ崩れ災害から保全された人口は34,773人と目標値（34,760人）を上回っている。
 ・しかし、県内の急傾斜地崩壊危険箇所2,584箇所のうち、平成26年度末までに整備を完了した箇所は614箇所と未だ低い水準（整備率23.8%）にあり、多くの県民が土砂災害を被る危険な状況にさらされている。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

・事業予算の確保に努めるとともに、事業効果の高い箇所の整備を重点的に進めた結果、がけ崩れ災害から保全される人口が目標値を上回った。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
- ・県内の急傾斜地崩壊危険箇所2,584箇所のうち、平成26年度末までに整備を完了した箇所は614箇所と未だ低い水準（整備率23.8%）にあり、多くの県民が土砂災害を被る危険な状況にさらされている。
- ②困っている状況が発生している「原因」
- ・現状の限られた予算の中では、整備完了箇所の大幅な増加は望めない。
- ③原因を解消するための「課題」
- ・未整備箇所は依然として多く残されていることから、さらに事業予算を確保する必要がある。
 ・事業効果の高い箇所の整備を引き続き重点的に推進する必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・事業予算を確保するとともに、避難所、要配慮者利用施設等事業効果の高い箇所の整備を引き続き重点的に推進する。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）